発表番号	所属機関名	発表者氏名	助成事業名
A-1	常翔学園 大阪工業大学	谷 保孝	社会資本形成・発展に寄与した河川流域の開発と貢献を総括的に捉えた『淀川学』の体系化とリベラルアーツ教育への実践的研究
A-2	信州大学	香山 瑞恵 吉谷 純一 【代理発表】	水害版マイ・タイムライン普及を目指す防災・ラジオ工作教室の開催
A-3	防災科学技術研究所	秋田 寛己	山地流域からの水・土砂流出量予測のための土壌侵食モデルの応用に関する研究
A-4	富山大学	山崎 裕治	景観遺伝学的分析による河川性魚類の生息と分散に対する要因解析
A-5	神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻	椿 涼太	高度化手法の普及に向けた各種流量観測法の比較検討
A-6	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 七飯淡水実験所	萩原 聖士 【欠席】	水棲生物の繁殖イベントを検出する環境RNA・環境DNA分析法の開発と応用～サケマス類をモデルとして～
A-7	兵庫県立大学	栗山 武夫	特定外来種ヌートリアの生態的地位の解明
A-8	東京大学	鳥居 将太郎 【欠席】	河川中に存在する環境DNAの超高感度検出技術の開発
A-9	日本大学	手塚 公裕	国指定史跡・名勝「南湖公園」における池干しが放射性セシウムと空間線量率に及ぼす影響
A-10	石巻専修大学理工学部	久米 学	潮止堰によるニホンウナギの遡上阻害の評価
A-11	土木学会水工学委員会 河道管理研究小委員会	戸田 祐嗣	河道管理研究推進・技術開発に向けたフィージビリティスタディー
A-12	神戸大学	角松 生史 【欠席】	流域治水対策と国家補償・被災者支援論—正義論の観点から
A-13	早稲田大学	福元 真	名字分布から分析する河川交通のネットワーク効果に関する研究
A-14	京都大学	中山 耕至	アカメ稚魚成育場としての汽水コアマモ場の重要性を種特異的環境DNA分析により明らかにする
A-15	東京大学	板井 啓明	ケイ素安定同位体比およびゲルマニウム/ケイ素比を用いた鬼怒川・小貝川流域におけるケイ酸動態の解析
A-16	東京学芸大学 大学院	山神 明理	気象予報士が東京都北区小学校で実施するマイ・タイムライン出前授業
A-17	熊本県立大学	中川 智裕	水生昆虫の成虫はどこにいる？ —微気象条件に着目した生息場環境に関する基礎的研究—
A-18	東京大学大学院 農学生命科学研究科	前田 達彦	オオウナギの食性から紐解く河川生態系動態の解明
A-19	土木研究所 自然共生研究センター	岡本 聖矢	河川景観遺伝学的アプローチによる流域内・流域間における水生昆虫の遺伝的集団構造と遺伝的交流パターンの評価
A-20	土木研究所	松澤 優樹	地下水流入量を変化させることによる魚類の冷水域への移動特性の解明
A-21	和歌山工業高等専門学校	櫻井 祥之	流域治水プロジェクトの推進における都市計画の課題に関する研究
A-22	京都大学	谷川 陸	近代京都の河川改修における風致保全手法の解明と現代的意義の検証
A-23	大阪府立長尾高等学校	向井 正明	淀川水系のpHに関する研究 —船橋川を中心として—
A-24	京都府立亀岡高等学校	中嶋 知彦	亀岡の自然豊かな河川環境を未来につなげる
A-25	大阪府立園芸高等学校	神 絵里香	猪名川河川域の植物調査（絶滅危惧植物の保全・増殖および昆虫が利用する植物のフェノロジーの制作）

発表番号	所属機関名	発表者氏名	助成事業名
B-1	日本水フォーラム	久保田 明博	総合治水から水マスタープランを経て、流域治水に取り組んでいる鶴見川流域をケーススタディとした流域治水推進方策に関する研究
B-2	福岡県保健環境研究所	中川 修平	MRI造影剤（ガドリニウム化合物）の下水汚染指標（トレーサー）としての活用
B-3	群馬大学大学院 理工学府環境創生部門	鶴崎 賢一	定量的精度を有する広域土砂動態モデルの構築とその現地適用による広域土砂対策の検討
B-4	山口大学大学院創成科学研究科	中尾 遼平	堆積物環境DNAを用いた河川生物調査の実用化にむけた基礎的検討
B-5	東京大学 大気海洋研究所	脇谷 量子郎	クロダハゼの保全に向けた環境選好性の検証： 同属移入種との生態学的比較研究
B-6	土木学会 堤防研究小委員会	前田 健一 石原 雅規 【代理発表】	河川堤防のFailure Pathと不均質性を考慮した安全性能の評価技術の向上と堤防情報のあり方：「堤防工学でなすべきこと」の提案
B-7	北海道大学大学院工学研究院	山田 朋人	第9 回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議
B-8	京都大学	鈴木 啓太 【欠席】	河口域の魚類多様性評価への環境DNA技術応用の検討
B-9	水産研究・教育機構 水産大学校	南條 楠土	塩性湿地で育まれる魚たち—ヨシ由来の有機物を同化する魚種の特定—
B-10	京都大学	木村 里子	野生下ニホンウナギ <i>Anguilla japonica</i> におけるテロメア長の季節変動に関する研究
B-11	山形大学	山門 陵平	リアルタイムセンシング可能なイオンペアセンサーの開発
B-12	近畿大学	松井 一彰	上流から下流にかけて都市河川における薬剤耐性大腸菌群動態の解明
B-13	佐賀大学	押川 英夫	洪水氾濫による家屋被害の評価方法に関する研究
B-14	大正大学	寺村 淳	五ヶ瀬川水系北川における霞堤を軸とした河川整備後の地域の変遷と住民意識の変容
B-15	岡山大学 学術研究院 環境生命自然科学学域	吉田 圭介	画像生成AIとUAVによる河川ゴミ検出手法の開発
B-16	香川大学 地域強靱化研究センター	磯打 千雅子	水害BCPタイムラインによる気候変動に適応した地域社会形成
B-17	福島大学 食農学類	原田 茂樹	河川環境評価のワークショップ実施事象
B-18	京都大学	中村 亮太	流水型ダム貯水池における堆砂量とその質に関する考察
B-19	和歌山県立医科大学	堤 峻太郎	紀の川水系和歌川に生息する微細緑藻類への銅耐性化・蓄積現象の影響の解明
B-20	北海道立衛生研究所	落合 崇浩	河川環境と魚類に潜む食中毒細菌の遺伝学的研究
B-21	東京大学大学院 新領域創成科学研究科	竹内 宏太	放流した養殖ニホンウナギが自然下で摂餌を開始する時期の解明とその餌生物の把握
B-22	山形大学	西山 正晃	環境DNA分析を用いたサクラマスとブラウントラウトの実態調査： 山形県と秋田県の河川を対象として
B-23	愛知県立佐屋高等学校	平井 直人	土水路の管理の違いによる水生昆虫やカエル類の季節消長
B-24	正智深谷高等学校	亀山 典幸	マミズクラゲの生育方法の解明
B-25	米原市立大東中学校	河地 誠	米原市の河川と三島池の環境・生物についての研究Part-4

発表番号	所属機関名	発表者氏名	助成事業名
C-1	名城大学	谷口 義則	世界遺産・知床の河川における地球温暖化の影響： 冬季の水温上昇と融雪攪乱がオショロコマに及ぼす影響予測
C-2	土木研究所 流域水環境研究グループ 自然共生研究センター	溝口 裕太	河道内樹木の総数把握に向けた3D点群プロセッシング技術の開発
C-3	東京都立大学	横山 勝英	ニホンウナギ遡上のための潮止め水門の運用に関する合意形成
C-4	近畿大学 工学部	苅部 基一	溪流魚における福島第一原子力発電所事故に由来する 放射性ストロンチウム濃度の推移
C-5	帝京科学大学	片桐 浩司	河川の湧水環境における水生植物の分布・生育条件の解明
C-6	新潟大学理学部	葉田野 希	中部日本の主要水源における中長期的時間スケールの水位変動の比較
C-7	国立大学法人山梨大学	松浦 拓哉	黒部川扇状地における地下水位の漸減現象の解明
C-8	日本河川教育学会	金沢 緑	東北地方における河川教育の普及
C-9	北海道大学	磯部 公一	流木による堰上げがもたらす渡河橋梁直接基礎の極限支持力への影響評価
C-10	信州大学 理学部	竹中 將起	環境DNA解析を用いた遺伝的多様性評価と生物系統地理研究の試み
C-11	富山県立大学工学部 環境・社会基盤工学部	久加 朋子	河床材料の粒度構成変化が河道内樹林化・流路変動特性に 与える影響の実験的検討
C-12	富山県立大学	三小田 憲史	光分解性をもつ蛍光成分を利用した新たな下水追跡手法開発の試み
C-13	京都大学	高木 淳一	河川改修工事はニホンウナギの生息環境に長期間の影響を与えるか？
C-14	京都大学	市川 光太郎	深層学習を用いたニホンウナギ稚魚の堰遡上行動モニタリング
C-15	福山平成大学	藤江 浩子	河川・水教育を軸とした地域連携モデルの構想
C-16	岐阜大学	神谷 浩二 中島 陽登 【代理発表】	渇水時の扇状地河川による地下水涵養量を 観測情報に基づき評価する簡易手法
C-17	京都大学	西村 文武	小規模流域における薬剤耐性菌・遺伝子の存在実態と 水平伝播特性に関する基礎的研究
C-18	国立大学法人奈良国立大学機構 奈良女子大学 大和・紀伊半島研究所 共生科学研究センター	鎌倉 史帆	顕微鏡実習を通じた外来珪藻問題の周知
C-19	東京大学大学院	竹中 浩貴	河川水ストロンチウム安定同位体比マップ作成と遡河回遊魚エツへの 応用を通じた、有明海流入河川の環境保全に関する研究
C-20	水産研究・教育機構 水産技術研究所	笹野 祥愛	温帯・亜熱帯のクロダイ属魚類から読み解く 沿岸魚類の水温依存的な河川利用
C-21	東北大学	保尊 大志	礫河原植生構成種の分化過程の検証 ～礫河原の植生はどうやって形成されたのか～
C-22	琵琶湖博物館	菅原 巧太朗	脂肪酸分析を用いた淡水二枚貝イシガイ科の 野外及び飼育下における同化餌資源の比較と最適餌資源の解明
C-23	東海国立大学機構岐阜大学	土方 宏治	中小河川の河道内氾濫原は水生生物群集に影響を及ぼすか
C-24	学校法人大阪学園大阪高等学校	平野 宏太	種特異的環境DNA手法を利用した仏生寺川水系および溜池における タイリクバラタナゴ(外来種)の生息状況調査
C-25	津田学園中学校・高等学校(六年 制)	寺本 豊	流水産卵性ナガレヒキガエル幼生の分布様式に及ぼす河川流の影響
C-26	京都大学防災研究所	小柴 孝太 中村亮太 【代理発表】	流砂観測と損傷計測を統合した排砂バイパストンネルの 底面損傷量予測の高度化

発表番号	所属機関名	発表者氏名	助成事業名
D-1	茨城大学	前田 滋哉	砂防堰堤に設置した可搬魚道と河川における流れの観測・モデル化によるサケ・マス類の遡上促進
D-2	東北学院大学	齊藤 康則	千曲川堤外地における水害と農業の過去・現在・未来
D-3	北海道大学	笠井 美青 【欠席】	軟岩河川における固定砂州の発達に着目した浸食進行プロセスの解明
D-4	ふじのくに地球環境史ミュージアム	渡辺 友美	川を観る切り口の展示デザイン：その評価と指針
D-5	島根大学	山口 啓子 松田 烈至 【代理発表】	河口汽水域におけるニホンイサザアミおよびクロイサザアミの成長と生産に関する研究
D-6	富山大学	太田 民久	ストロンチウム同位体分析を用いたサクラマスの生活史多様性の推定
D-7	名古屋大学	中川 書子	酸素-17濃縮同位体トレーサーを用いた高感度・高精度溶存酸素消費速度定量
D-8	国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部	林田 寿文	マルチビームソナーを用いた魚道の魚類遡上数観測システムの開発
D-9	名城大学	溝口 敦子	地質特性を踏まえた表層河床材料粒度情報の面的把握手法の開発
D-10	東洋大学 生命科学部	伊藤 元裕 仁部 駿介 【代理発表】	利根川水系におけるチャネルキャットフィッシュの食性および広域移動に関する生活史解明
D-11	山口大学大学院創成科学研究科	赤松 良久	豪雨への危機感醸成のための3DVR降雨体験コンテンツ開発
D-12	愛知工業大学	赤堀 良介	救助活動実務者に向けた水難事故要救助者の移動経路評価手法の提案
D-13	富山県立大学	呉 修一	侵食破堤の数時間前予測に向けたアンサンブル洪水・侵食予測手法の開発
D-14	京大大学生態学研究センター	佐藤 拓哉	流域ネットワークが支える魚類の移動と生き方の多様性
D-15	秋田大学	田口 岳志	秋田県雄物川における洪水由来の堆積物特性とその発生頻度に関する研究
D-16	福岡工業大学	田井 明	ダム堆砂を用いた河口干潟における覆砂の効果持続性に関する調査
D-17	埼玉県環境科学国際センター	田中 仁志	水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及
D-18	岡山大学学術研究院教育学域	小野寺 かれん	川と人間との共生に関する理科授業力の向上を目指した教師教育の基礎的研究
D-19	北里大学大学院海洋生命科学研究科	藤原 弘貴	ウキゴリ3種の河川における棲み分けの実態解明
D-20	岐阜大学	松山 嗣史	河川水中微量元素の全反射蛍光X線分析に向けたベイズ推定の適応
D-21	東邦大学	大坂 雄一郎	河口干潟環境中からのPAHs及びPFAS分解微生物の単離・同定と分解活性の評価
D-22	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林昆虫研究領域	太刀掛 脩平	森林溪流の底生動物群集から紐解く食物連鎖長の決定機構とその状況依存性
D-23	兵庫県立大学	松田 裕太	オオサンショウウオのマイクロハビタットの規定要因の推定
D-24	北海道立総合研究機構	伊藤 雅浩 【欠席】	河川に出現する野生サケ稚魚の食性および栄養状態の季節的変化の把握
D-25	京都府立福知山高等学校	藤田 浩	京都由良川の度重なる河川氾濫が魚類多様性に与えた影響の解明
D-26	山形県立米沢興譲館高等学校	吉田 直史	キタノメダカとミナミメダカの生息域調査